子どもたちの現状

・「６年生を送る会」では、練習の成果を発揮し、これまで学校のリーダーとして頑張ってきた６年生に感謝の気持ちを伝えることができました。また、学年ごとに発表したことで、同じ学年のメンバーのお互いのよさに気付き、学年として協力する力を身につけることもできました。

・昼休み後の掃除の時間には、全校で静かに掃除をする姿が見られます。また、毎週木曜朝のボランティア掃除では多くの子どもたちが自主的に参加し、自分たちの学校をきれいにしています。

具体的取り組み

・家庭学習がより定着するように、2／22～2／28 を重点取組期間『おうちでバッチリ週間』とし、その期間は決まった時間（学年×10＋10）の家庭学習ができるように家庭のご協力のもと取り組みました。やり遂げた子には「おうちでバッチリ枝権兵衛パーフェクト賞」を贈りました。また、自学ノートについても、学年達成目標（学年ごとにシールの枚数や冊数で設定）で「ロングラン賞」を授与する取組も続けていきます。

・結論を先に述べ、根拠をもとに理由を説明できることを目指し、指導を継続します。意見のみ、根拠のみ、理由のみでも言えたことを認め、褒めることで自信をもたせるとともに、教師の問い返しの中で不足していることを補っていきます。また、友だちの考えと関わらせながら自分の考えを話した児童を褒めていくことで、他へも広めていきます。

・自分たちで行動できたことを認めて褒め、頑張りをお互いに認め合ったり、励まし合ったりしながら活動する中で、自ら考えて活動する姿、相手を思いやる心を児童どうしの関わりの中で育んでいきます。

・道徳でいじめを題材にした授業を行っています。いじめは絶対に許されないこと、された相手が心や体の傷を負うこと、いじめに気付いて黙っていることもいじめであることを指導しています。友だちアンケートや面談を行い、子どもたちの表情や行動に着目して早期発見を行ったり、ご家庭からの連絡や学校からの連絡でお子さんの様子を互いに知ったりすることができるようしていきます。困っている児童の気持ちに寄り添い、いじめを許さない学級づくり、児童一人ひとりが安心して学ぶことができる学校づくりを行います。

第３回学校関係者評価委員会(2/13)でのご意見

・6 年生を送る会で、低学年が声をかけると 6 年生が反応する姿がとても微笑ましかったです。この姿はこれまでに高学年が低学年の教室に行って活動するという関わりがあったからだと思います。6 年生は素敵な学年だと感じました。

・教員と児童アンケートの数値の隔たりから、自分の頑張りを意識していなくて、自分はできないと思っている児童がいると考えられます。頑張っている様子を子どもたちに一層伝えていく必要があると感じます。

・「みんなを笑顔にする、相手を笑顔にする」項目で A 評価がたくさんあるのは、6 年生を送る会で見た盛り上がりにつながっていると思います。このような雰囲気が、また学校に来ようと思う子どもたちの気持ちにつながっていると思います。

学校では、評価結果や学校関係者評価委員会での意見を踏まえ、改善策を練って、努力を重ねていきます。ご家庭では、学校の取り組みを便りや担任等の話を通してご理解、ご協力いただき、よいことを喜び合い、必要なことはお教えいただき、お子様の力を伸ばしていただきますようお願いいたします。地域では、子どもたちの教育（共育）に携わっていただくと共に、「良くないこと」は諭していただき、「良いこと」は継続していけるよう、共に子どもたちを育てていただけるとありがたいです。

学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの教育（共育）に当たっていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。